

奈良町にぎわい通信

Vol.57

二〇二〇・小寒〜大寒

発行
奈良町
にぎわいの家

奈良町にぎわいの家・つし二階アート企画VOL20
柳澤景子展く24 seasons〜(キュレーター内田千恵)

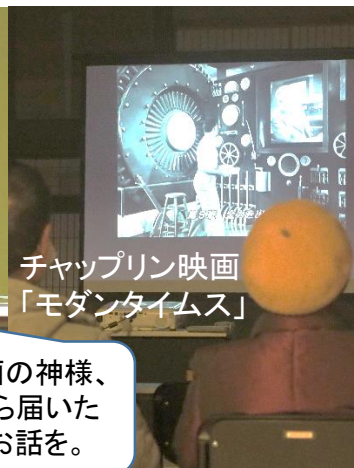




岡井さん、菊岡さん共に
80代。古き良き時代を知る世代が
私たちへ伝えてくれるもの...

年末恒例しめ縄作り

岡井稲郎さんの指導を
楽しみに皆さん集います。



菊岡統政さん。映画の神様、
チャップリン本人から届いた
クリスマスカードのお話を。

二十四節気と俳句講座
倉橋みどりさんの楽しいお話



奈良町にぎわいの家 12月のイベントから



かまど体験。フタをあける
この瞬間が嬉しい。冬の
通り庭に温かい湯気が。



史料保存館出張展示は、奈良奉行、
梶野良材。一刀彫の名人、森川杜園
に名を授けた人物でもあります。



当館、堀内紀子による
「奈良七口巡り」報告会。
奈良の道を辿って。



当館主催
「奈良町に古代を探る」
詳細は次ページに。

「海外のお客様インタビュー」Vol.4 イタリアより



Name バーバラさん&ジョゼッペさん

Country イタリア

Age 55歳 & 51歳

Interview 2020/1/6

(コーディネート 英訳スタッフ 辻雅子)

Q1. 奈良は初めてですか？選んだ理由は？

奈良は初めてです。個人旅行できました。奈良の文化への好奇心があります。ユネスコの世界遺産の情報やオンライン、ガイドブックなどで情報を集めました。

Q2. 奈良のどこが気に入りましたか？

イタリアにも古いものが沢山あり、奈良はとても近い感じがします。古い建物や寺社、歴史の感性に満ちています。

Q3. 当館をどう思いますか？好きなところで写真をとりたいです。

昔の人が住んでいたリアルな感じが残っていると思います。特に、仏間の天井や茶室など素晴らしかったです。写真は茶室で。

Q4. これからどこに行きますか？

奈良の後は北海道に行きます。ミラノから来ましたが、スキーが好きで、北海道でのスキーを楽しみにしています。

Q5. お土産は何を買いましたか？

まだ何も買っていません。彼がOKと言ってくれたら？！買います。

Q6. あなたにとって家とは？

居心地がよい場所。私たち、そして猫にとって愛すべきところであること。



ミラノは北部イタリア最大の都市で、ファッションの街としても有名ですが、お二人とも、カジュアルな中にも、お洒落度が高く、バーバラさんのメガネはとても素敵でした。北海道に行かれるとのことですが、今年は暖冬で雪不足とききます。素敵な日本の冬が満喫できますよう。

← 当館の節気ハガキをプレゼント。

(構成・文 おのこまち)

奈良町に古代を探る「講演会&ウォーク」

昨年12月8日(日)、奈良町にぎわいの家管理共同体では、「奈良町に古代を探る講演会&ウォーク」を開催しました。平城京の時代につながる文化遺産や伝説、万葉の歌を学び、世界遺産「古都奈良の文化財」の元興寺や万葉の歌碑を歩いて巡るイベントです。講師の服部光真氏(公益財団法人 元興寺文化財研究所研究員)には、元興寺の境内とならまち成立の詳しいご講話のあと、歴史ウォークにて元興寺本堂の床下にある非公開の礎石を見せていただきました。参加者の皆様は、当共同体で新たに作成した奈良町ガイド「古代につながるまち」を手に手に、説明を聞きながら歩いて4時頃解散。「奈良町を歩くと昔のことが分かる」「有意義な一日だった」などの声をお聞きしました。ご協力いただいた方々、ありがとうございました。

(奈良県・文化資源活用補助金採択事業/於・奈良市ならまちセンター3階会議室/参加者65名/コース:不審ヶ辻~瑜伽神社~元興寺~塔跡~小塔院~にぎわいの家~率川神社、行程約3.5km、協力:なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀)

(事務局…堀内紀子)



あまりの寒さに、マフラーに顔をうずめて、大寒の街を急いでいます。寒風に向かって、前へ前へ。

マフラーに顔をうずめて
大寒の街を急げり
風に向かひて

オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2020
大寒

暖をとれば

事務局長 藤野正文

お正月が過ぎて大寒（一月二十日）を迎え、日が長くなったとはいえ、日差しの恩恵を受け温かくなる二月の立春までもう少し我慢という気持ちになります。

日本の家屋は、蒸し暑い夏を過ごしやすくつくるのが基本であり、開口部が多く、壁や床の厚みも薄くつくられていました。冬はいくら部屋を暖めてもすき間風があったりして、部屋全体を温めるといふより手足で暖をとって寒さをしのいできました。「炉」や「かまど」、のちに移動可能な火鉢や炬燵（こたつ）、行火（あんか）、湯たんぽなどの道具が発達してきたようです。

火鉢は、奈良時代にもあったようで江戸時代に急速に発達し、ストーブに変わるまでの間、ほんの四十年ほど前まで広く使われていました。お湯をわかしたり、煮炊きをしたり、お餅を焼いたり暖房以外の役割も果たしていました。網の上でお餅焼の番をするのは子供でした。子供ながらお餅の焼ける色と形の変化、臭いや煙を五感で感じて火鉢番をしていました。私はなぜか火鉢を見ると、その横に座っている静かな祖父の姿と火元にかざされた皺の寄った手を思い出すときがあります。こたつは、室町時代から禅僧によつ

て広まったようですが、床に炉を切った「掘りごたつ」、持ち運びできる「置きごたつ」があり、今でも「電気こたつ」として使われています。居間でのだんらん家族みんなが小さなこたつに入つてなべ料理やミカンを食べたりしたもの。今では考えられない顔と体が近接した？目と目が合う家族のふれあいがあったはずで、暖をとる、食事をするだけでなくコミュニケーションの場としてこたつがあったと思います。

今の電化された暮らしの中でも、五感で感じる場、家族のコミュニケーションの場が必要とは思いますが。

万葉の日本画家 岡橋萬帆「小品の世界」展

詩情あふれる万葉の風景を描いた画家、岡橋萬帆の展覧会（12/5-17）も5回目。蔵の中、静かに、奈良の風景の深みを湛えている作品を、皆さん、丁寧に鑑賞されていました。



つし二階アート企画Vol.20 柳澤景子展

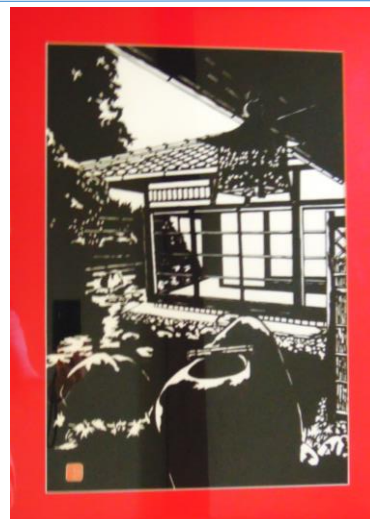
今号の表紙はフランスで活躍する柳澤景子さんの作品より。（～1/27）当館のテーマ、二十四節気に着目して描かれました。和紙に繊細な水彩画は冬の町家に春が来たよう。



場所はどこかな？見つけた！



作：檜垣謙三氏



当館風景の切り絵作品を
寄贈いただきました！

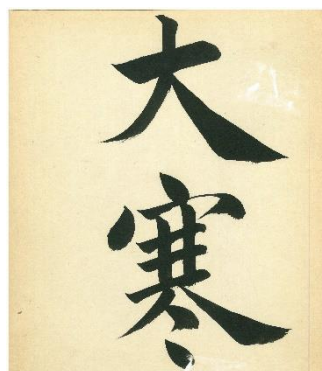
奈良町にぎわい通信vol.57

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00～17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>



書：逢香

奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



小寒

1/6～19



大寒

1/20～2/4

なんといふ初夢なるや人間の手に
負へぬほどのロボット生るる

前登志夫